

経営学部 経営学科公共経営専攻（令和2～5年度入学生）履修系統図

「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）

【教育課程の編成、教育内容】

経営学科公共経営専攻における教育課程編成・実施の基本的な考え方として、経営学・法学の各領域の専門科目について基礎分野から応用分野まで確実に修得できるように学年進行に合わせて配置し、公務員として活躍するために必要な専門科目を将来の進路に合わせて体系的に選択できるよう編成します。また、将来、学生一人ひとりが社会で活躍の場を広げるために、学内外での体験学修を取り入れた実践的な専門科目に加えて資格取得支援科目も自由に選択できるよう配置します。

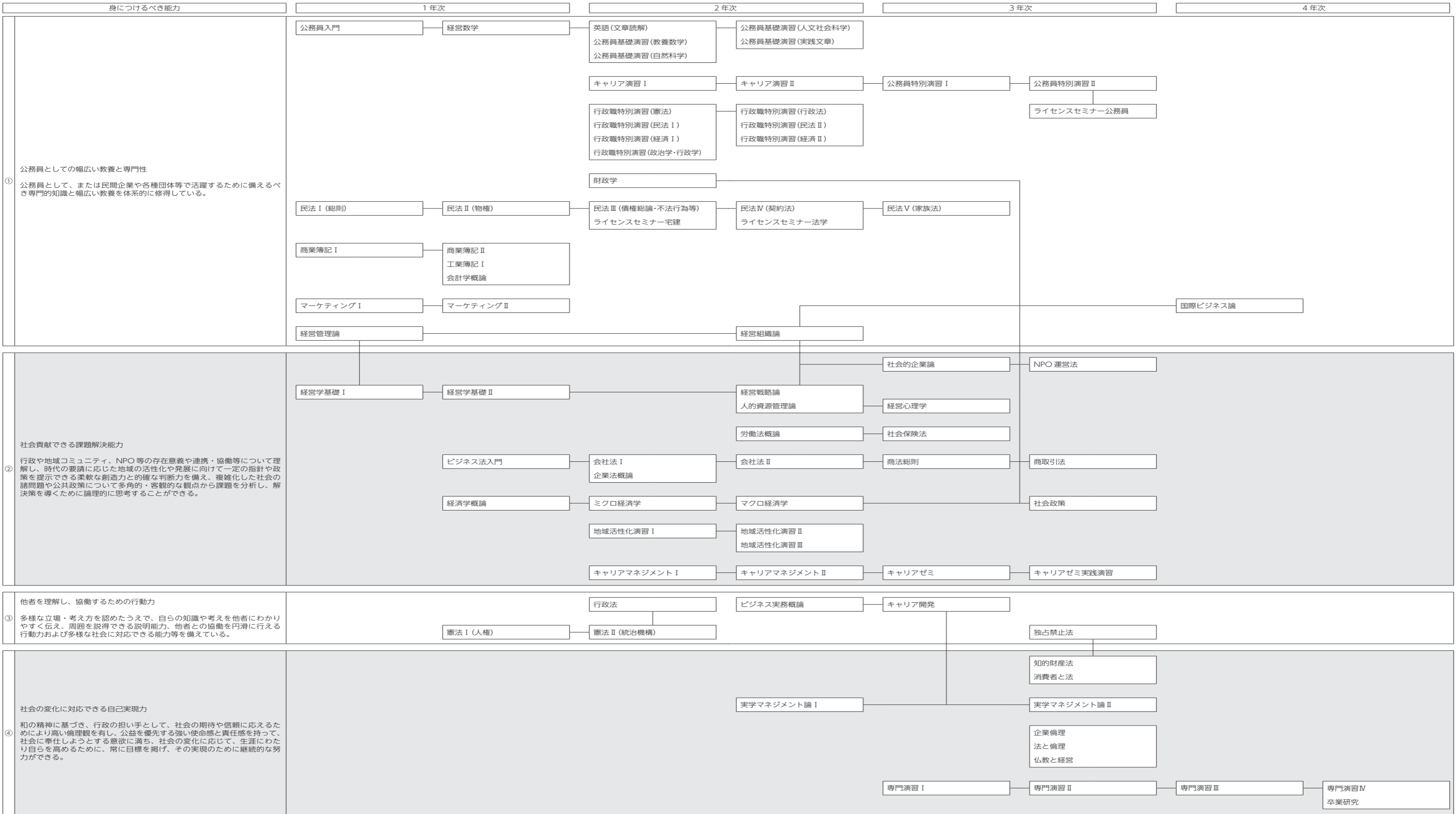
- 経営学・法学の基本的知識を修得します。経営学科の根幹をなす「経営学基礎Ⅰ・Ⅱ」「経営管理論」「商業簿記Ⅰ・Ⅱ」「憲法Ⅰ・Ⅱ」「民法Ⅰ～Ⅴ」などに関して、基礎から応用までを段階的、体系的に学びます。
- 公務員となるために必要な基本的知識を修得します。教養として求められる基本的知識に加え、公務員試験で必要となる基礎力を養成する「キャリア演習Ⅰ・Ⅱ」「公務員基礎演習」を含め、公務員として働くうえで必ず備えておくべき基本となる知識を体系的に修得します。
- 公務員として活躍するために必要な専門的知識を学びます。「行政法」「行政職特別演習」「公務員基礎演習」などをはじめとする、公務員試験で求められる知識を含め、公務員として働くうえで修得しておくべき専門領域を深く学ぶことによって、公務員試験に合格できる知識とともに、実際に公務員として働く際に応用すべき知識の土壌を培います。
- 地域を支える行政や企業等の多様な団体に対する理解を深めます。行政と連携・協働して地域を支えている企業などの実態理解を促進するために、実践的な科目として「実学マネジメント論Ⅰ・Ⅱ」「経営学研究」などを配置しています。アクティブ・ラーニングやICT教育を積極的に取り入れ、地域の活性化や発展に向けて課題を発見・解決できる論理的思考力と主体的な行動力を養います。
- 公務員としての資質を向上させます。「法と倫理」「専門演習Ⅰ～Ⅳ」に加え、キャリア関連科目の履修によって、公務員に求められる倫理観、使命感を育み、資質の向上を支援します。「専門演習Ⅰ～Ⅳ」は、3、4年次の必修科目として、4年間の学びを深化させる機会とするとともに、希望者は「卒業研究」論文に取り組みます。

【教育方法】

- 公共経営に関する科目全般については、学生が自ら設定した目標達成のために、従来の講義に加え、学生がICTを効果的に活用し、能動的に調査・分析のうえ、一定の結論を導き出し、発表や議論をするなど、積極的にアクティブ・ラーニングを実施します。
- 公務員に必要な知識の修得については、双方向形式の講義を通じて体系的な学びを促進することに加え、公務員試験に対応するために幅広い教養を養うとともに、実践的かつ具体的な指導を行うことによって即戦力となる資質を養成します。
- 専門科目や専門ゼミ等において、学問的および実務的な観点からも公務員の職務について探究し、行政サービス、福祉政策はじめ、社会問題の解決を視野に入れた企画・提案に取り組み機会を設け、学生主導型の積極的な学びにより、公務員が備えるべき高度な人権感覚をもって職務が遂行できる力を養います。
- 公務員として備えるべき倫理的価値観の向上を図るとともに、地域連携型科目をとおして地域を支える行政等に対する理解を深め、学外活動においても積極的に地域に関わり、市民に貢献する経験を通じて、より実践的に地域社会で活躍できる人材を養成します。

【学修成果の評価方法】

- 教育課程における学修の成果は、別に定めるアセスメント・ポリシーをもとに評価します。
- 公共経営に関する科目全般において、学生はSemester開始時に学修目標を設定し、Semester終了時、その達成度を自己評価（省察）します。
- 各科目において習熟度を測るために学期末試験、中間試験や小テストを行うとともに、科目の特色に応じて、レポート等の課題を与え、受講姿勢も含めて総合的に評価します。体験型の科目については、アクティブ・ラーニングの一環として実施するグループワーク、発表・報告等に加え、平常の意欲的な学修姿勢も含めて総合的に評価します。
- 公務員試験に直結する科目については、Semesterごとに全国的评价を行っている外部機関による模擬試験を実施することにより、目標とするキャリアの獲得に向けて学修の進捗度を評価する機会を設けます。



経営学部 経営学科企業経営専攻（令和2～5年度入学生）履修系統図

【教育課程編成・実施の方針】（カリキュラム・ポリシー）

【教育課程の編成、教育内容】
 経営学科企業経営専攻における教育課程編成・実施の基本的な考え方として、経営学の各領域について基礎分野から応用分野まで学年進行に合わせて専門科目を配置し、体系的なカリキュラムから希望する進路に合わせて、自由に科目が選択できるように編成します。また、学生一人ひとりの将来のキャリア形成を支援するために、インターンシップを中心とするキャリア開発科目に加えて、多様な公的資格取得を支援する科目も学年に応じて段階的に配置します。

(1) 経営学の基本的知識から無理なく専門知識までの修得を支援します。
 経営学の根幹をなす「経営学基礎Ⅰ・Ⅱ」「マーケティングⅠ・Ⅱ」「商業簿記Ⅰ・Ⅱ」などの科目を軸に、「経営管理論」「流通論」「経営分析」「財務会計」「会社法Ⅰ」「企業倫理」などの科目を有機的に配置し、学年進行に合わせて無理なく段階的、体系的に編成します。3、4年次には専門知識の深化を図る「専門演習Ⅰ～Ⅳ」を必修とし、希望者は担任教員の指導の下、「卒業研究」論文に取り組みます。

(2) 企業経営や職業に関する理解を深めるために、実践的な学びを支援します。
 「実学マネジメント論Ⅰ・Ⅱ」「ビジネスモデル研究」「美容・健康ビジネス論」など、より具体的に企業経営や職業に関する理解を深める科目を各年次に配置するとともに、ICT教育やアクティブ・ラーニングを取り入れた教育を行います。

(3) 公的資格の取得を支援します。
 公的資格試験合格を活用したキャリア開発資質の向上を促進する科目として「ライセンスセミナー」を設け、公的資格試験に挑戦し、合格することで専門知識に加え、職業適性を開発します。公的資格試験として、簿記、ファイナンシャル・プランニング技能士、販売士、ビジネス実務法務、ビジネス実務マナー、PC関連資格などの指導を行います。

(4) キャリア開発に直結する指導をします。
 企業経営専攻独自の準備講義「キャリア演習Ⅰ～Ⅲ」において社会人としての資質向上支援を行い、「インターンシップⅠ・Ⅱ」で実際の就業体験をすることにより、適性にあったキャリア開発を促進するとともに、将来のキャリアに必要な専門知識を深める機会をすべての学生に提供します。

【教育方法】

(1) 企業経営に関する科目全般の方向性として、従来の講義形式に加えて、学生と教員間、学生と学生間の双方向性ある授業を実施します。

(2) 学生自らが設定した目標達成のために、課題を発見し、能動的に研究・調査・分析・発表・議論する体験型授業を多く設けることによって、積極的かつ継続的にアクティブ・ラーニングを効果的に行います。

(3) 学生のキャリア開発のために、経営学部独自のキャリア教育科目を設け、入学時から継続的に教授します。また、国内でのインターンシップ必修化に加え、海外インターンシップを実施し、グローバル社会にも対応できる職業人を養成することに加え、地域連携型授業をとおして地域社会で活躍できる人材の育成を推進します。

(4) 公的資格（簿記、FP、販売士、PC検定、ビジネス実務法務、ビジネス実務マナー等）を取得するための授業をカリキュラムに体系的に配置することで、初級レベルから上級レベルまで学生が段階的に学修し、無理なく資格取得できる力を養成します。

【学修成果の評価方法】

(1) 教育課程における学修の成果は、別に定めるアセスメント・ポリシーをもとに評価します。

(2) 企業経営に関する科目全般において、学生は Semester 開始時に学修目標を設定し、Semester 終了時、その達成度を自己評価（省察）します。

(3) 各科目において習熟度を測るために学期末試験を行うとともに、科目の特色に応じて中間試験や小テストを行い、課題を与えて評価します。体験型の科目については、アクティブ・ラーニングの一環として実施するグループワーク、発表・報告等に加え、平常の意欲的な学修姿勢も含めて総合的に評価します。

(4) 国内外でのインターンシップ科目については、インターンシップ実施企業と連携して、実践可能な到達目標を設定し、教員、企業、学生の自己評価等多面的できめ細やかな評価を行います。

(5) 資格取得を目標とする科目については、小テスト、中間・学期末試験、平常の受講態度等に加えて、外部評価となる資格取得の成果も評価の対象とします。

